

iPad を活用した活動報告書②

◆報告者氏名： 小島 智子 所属:横浜市立盲特別支援学校 記録日： 2013年2月15日

◆活動内容のタイトル 「手と目の協応操作を高めるための活動支援」

◆活動内容の概要:

弱視・知的障害・肢体障害をあわせもつ幼児で、机上での課題に取り組むことや、手と目の協応操作が苦手である。また、造形の活動にも消極的であり、見ながら活動するよりは、手元の感覚で行っていることが多かった。家では、TVの液晶には少し興味を示していると聞いていたので、個別学習にiPadを取り入れることを考えた。iPadを使用したことにより、少しずつ机上での学習に取り組めるようになり、見ながら操作することが上達してきた。強度弱視であるために、色のコントラストがはっきりしたアプリを選ぶようにした。

【対象児（群）の情報】

◆学年： 幼稚部 年中女兒

◆障害名： 知的障害、肢体不自由、ピーターズ奇形

◆障害と困難の内容

- ・左目（義眼）右目（弱視）であり、低い視力による見えづらさがある。
- ・手の操作性が乏しく、指の分化での操作も難しいところがあり、玉入れやひも通しなどで、手指の巧緻性の練習をしている。

【活動目的】

◆当初のねらい

絵本やカードなどには全く興味関心を示さないが、TVの液晶画面などは、見ていた。片眼義眼ということもあり、視野の問題もあるので、液晶画面の大きさなどからもiPadは有効的に使える機器ではないかと考えて、個別の学習の時間に取り入れることとした。

また、手指の操作性の未熟さがあり、手と目の協応操作の練習も目的とした。

◆実施期間： 5月～2月

◆実施者： 小島 智子（個別学習担当教員）

【活動内容と対象児の変化】

◆対象児の事前の状況

手と目の協応操作が苦手で、見ながら操作するよりは、感覚で操作することが多かった。活動においても、興味を示すものには、見ようとするが、聴覚優位で耳からの刺激の方を好んでいることが多かった。

◆活動の具体的内容

・活用したアプリ

(baby tap、知育アプリ、i love fireflower、キッズソングなど)

・活用した機器（書見台・カットテーブル）

◆対象児の事後の変化

何度も操作方法の練習を重ねる中で、操作方法がとても上達し、いろいろなアプリを楽しめるようになった。始めた当初は、知育アプリで数を目で追っていくことが難しいところがあったが、よく目で追えるようになってきて、動体視力訓練としてもとても有効なものになった。

また、見ながら操作できるようになり、タッチの操作が夏までには、とても上手になってきた。夏以降は、指の分化の練習も入れて、人さし指で動かす練習も入れるようにした。2月になり、操作方法も上達し、色ぬりえのアプリでは、自分で指を縦方向へ動かすことができるようになってきた。



色ぬりえでなぞる様子

【報告者の気づきとエビデンス】

これまで、学習に対する意欲が非常に低かったが、iPad を利用したことで机に座ることができるようになったのは大きな成果である。何度も練習を重ねる中で手指の操作性も上達し、自分で操作することができるようになった。絵本などにも全く興味を示さず、絵本を出すと怒ってなげいていたが、iPad 中のめくる絵本は興味を示し最後まで集中して聞くことができた。また、iPad の操作ができるようになってから、課題の学習も発展して、簡単な型はめなども、感覚ではなく、手元を見ながら操作ができるようになり、いろいろな場面で手と目の協応操作ができるようになった。